

5がつの子どもの会だより

<4.29.4.24>

今年は、寒さが残り、春が来るのが遅れていましたが、ふく風が心地よく感じられるようになりましたね。日ざしは、とても強そう、日中は暑くなりそうですが、新緑がとても美しくあちこちの草木、野山をみただけで、春を感じ、気持ちいいですね。うちの庭も、明るい緑でいっぱい。この気持ちよく過ごしやすい季節を、十分満喫したいですね。



物を投げる、つかむ、握る、はさむ、ひねる。また、ひもを編んだり、結んだり、ほどこいたり……。コマにひもを巻いて回す技術も、高度です。泥をこねる、かき混ぜる、ちぎる、団子にするのも器用さです。魚釣り、トンボとり、虫取りなどの微妙な動きも、器用さです。楽しい「遊び」を通して子どもたちの器用さを育てたい。(不器用、子が増えているより、手と指は第2の脳)

まさに、私も思っている全く同じことを書いてあったので、紹介します。



4月号で遊びの効用について、書いていましたが、そのことについて補足～

- 自主性が育つ - 物事に意欲的に取り組めるようになる。
- 知的側面が育つ - 思考力・判断力・創造力が身につく。
- 身体的側面が育つ - 動き回ることで体力がつく。
- 社会性が育つ - ルールを守ったりトラブル処理がしやすくなる。
- パーソナリティが育つ - 忍耐力や協調性が育つ。
- 道徳性が育つ - 責任感が育つ。善悪の度合いをつかめる。
- 情緒が安定する - 思いやりや優しい気持ちも育つ。
- 生活技術が身につく - 道具を使うことにより器用さが身につく。



<直接体験>

子どもには、身体を使う遊びのような生活体験、すなわち「直接体験」を十分にさせてやるのが重要です。テレビ視聴など「間接体験」はあくまでも補足。日常の小さな体験も、幼児期から積み重ねることで、成長に良い影響をもたらす。～「直接体験」が子どもを成長させる～

不器用さの周辺の問題として、現代の子どもたちは、生活体験が不足しているといえます。本来、人間は、体験を通して成長すると考えられています。その体験には、2通りがあります。遊びや仕事といった「直接体験」(生活体験・現実体験)と、勉強や読書、テレビ視聴といった「間接体験」(代理体験)です。なかでも子どもに最も必要で、かつ重要な体験は、直接体験です。(しかも、「十分に体験させる」ことが肝要です。(不器用、子が増えている))



～遊びこそ「器用さ」の根源～

何よりも器用さは「遊びから育まれる」といっても過言ではないでしょう。身体の手操作や頭脳の手操作からも、器用さは育まれるが、特に手に関する器用さは、遊びの原点です。

おはじき、お手玉、あやとり、折り紙などは、指先を繊細に使う遊びです。指相撲は力強さです。ナイフ、ひも、棒、石、植物を切ったり、叩いたり、振り回したり操作する動き。